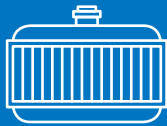


**Sustainability  
Report 2016 Highlights**





日本ラジエーター製造株式会社 (1938)



関東精器株式会社 (1956)



2000年 カルソニックカンセイ株式会社 設立



**Calsonic Kansei**

*Driven by Inspiration and Innovation*

私たちカルソニックカンセイグループは、黎明期より一貫して、日本の、ひいては世界のモータリゼーションを支えてきました。

これからも、社会とともに歩み、社会に貢献する存在として、挑戦を続けます。



Corporate Vision

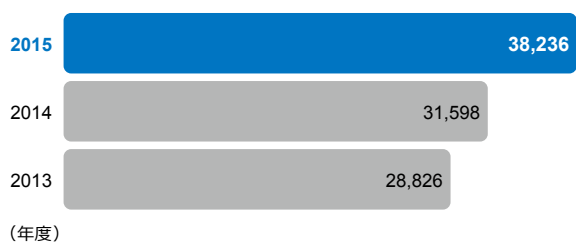
グローバルな自動車関連企業として、世界をリードする技術革新とモノづくりに情熱を持って取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します

# 目次

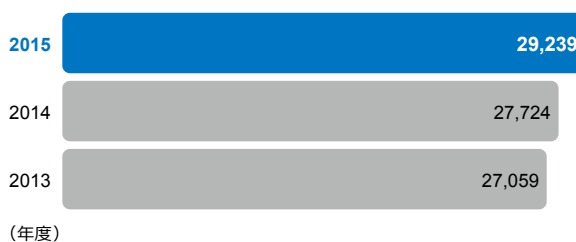
## 連結売上高 (百万円)



## 連結営業利益 (百万円)



## 連結研究開発費 (百万円)



## 連結従業員数 (人)



## 今日を支え、明日を創る

### ～私たちの事業と思い～ **2-7**

快適でサステナブルなクルマ社会のため	2
世界を駆ける Global	4
情熱を持ち、チームで進む Inspired	5
革新で社会に貢献する Innovative	6
調和を重んじ、夢を育む Sustainable	7

## サステナブルな社会に向けて

### ～トップメッセージ～ **8-11**

経営者挨拶	8
トップ対談	9

## 私たちならではの価値を、社会へ

### ～ハイライト2015～ **12-17**

環境対応型製品の開発	12
多様な人財の尊重と育成	14
モータースポーツを通じて	16

## 責任感を持ち、誠実に

### ～継続的なCSR活動～ **18-27**

サステナビリティ経営の方針	18
カルソニックカンセイグループのKPI (主要指標)	20
組織統治	21
人権	22
労働慣行	23
環境	24
公正な事業慣行	25
消費者課題	26
コミュニティ参画・開発	27

## 企業情報

### **28-31**

グローバルネットワーク	28
国内ネットワーク	29
会社概要	30
編集方針	31



JPX日経インデックス400は、資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした、「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成される新しい株価指数です。株式会社日本取引所グループ/株式会社東京証券取引所および株式会社日本経済新聞社が選定します。  
当社は2014年度に続き2015年度も構成銘柄に選定されています。



「モーニングスター社会的責任投資株価指数」は、モーニングスター株式会社が国内上場企業の中から社会性に優れた企業として評価する150社を選定し、その株価を指数化した国内初の社会的責任投資株価指数です。  
当社は2016年1月4日付で構成銘柄に組み入れられました。

# 今日を支え、明日を創る

～私たちの事業と想い～

## コックピットモジュール・ 内装製品



コックピットモジュール

ドライバーや同乗者が直接触れる部品。機能性・安全性に加え、快適性や手触りなど、感性品質も重んじています。

### 主な製品

- インstrumentパネル
- コンソール
- ステアリングメンバー

## 電子製品



メーター



リチウムイオンバッテリーコントローラー

見やすく使いやすい操作機器に加え、近年は電気自動車の電子制御装置など、活躍の場が広がっています。

### 主な製品

- インバーター
- ボディーコントロールモジュール
- キーレスエントリー
- 乗員検知システム

## 熱交換器製品



モーターファン

ラジエーター

コンデンサー

エンジン冷却水やオイル、冷媒など、自動車には「冷やしたり温めたりする」パーツが多く、その的確な制御を担います。

### 主な製品

- フロントエンドモジュール
- ATオイルクーラー&ウォーマー
- チャージエアクーラー
- EGRクーラー

## 快適でサステナブルなクルマ社会のため

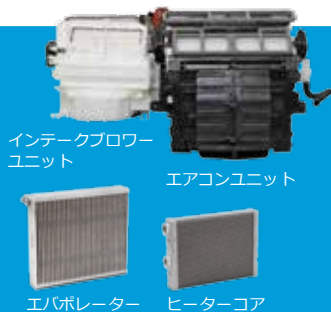
現在、私たちカルソニックカンセイグループの製品は、2つの創業事業である冷却器（ラジエーター）および計器から大きく羽ばたき、6つの製品分野で国内外の自動車メーカーをパーツ供給者として支えています。

すべてのモノづくりで、快適でサステナブルなクルマ社会に貢献するため、私たちの事業は進化を続けています。

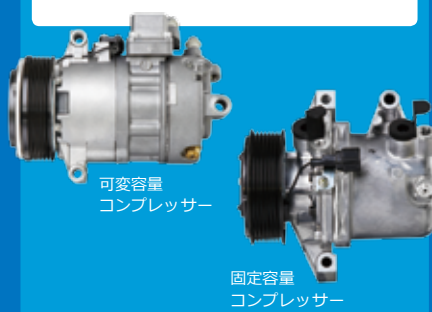


CK d

## 空調製品



## コンプレッサー製品



## 排気製品



常にクリアな視界と快適な車内空間を実現し、ドライバーや同乗者の安心・安全・快適を支えます。

エアコンシステムの「心臓部」として、効率性、ひいては燃費の改善と、環境負荷の低減に貢献します。

静音とエンジン出力、排気ガス浄化といった相反する課題に応え、クルマと社会の調和を促進します。

### 主な製品

- 空調電子制御ユニット
- 空調用電装コンポーネント (モーターアクチュエーターなど)

### 主な製品

- 片側斜板式可変容量コンプレッサー
- ベーンロータリー式固定容量コンプレッサー

### 主な製品

- エキゾーストマニホールドコンバーター
- バルブ
- ディーゼル用酸化触媒
- ディーゼル・パティキュレート・フィルター



ata

部品を供給する自動車メーカー数  
(2016年3月末現在)

19社

今日を支え、明日を創る

～私たちの事業と意思～

# Global

## 世界を駆ける

供給先の拡大や経済のグローバル化を受け、私たちのフィールドも世界各地へと広がり続けています。現在、カルソニックカンセイグループの拠点は16カ国・地域に、外国籍社員は約15,000名に及びます。各国・地域の自動車事情に即したモノづくりこそ大切であり、世界の街角を、地域に根差しつつ、多様な視点と価値観で支えていくことが、グローバル企業としての使命だと私たちは考えています。



MISSION  
グローバル

1

私たちは多様な考え方を尊重し、ダイナミックな行動により、世界有数の自動車部品メーカーとしてのブランドを構築します。

CK data

カルソニックカンセイグループの  
拠点数(2016年3月末現在)

16カ国・地域

78生産拠点

# Inspired

## 情熱を持ち、チームで進む

お客さまや自動車ユーザーの皆さまが、私たちに期待するものは何か？  
それは、私たちならではの価値が結集されたモノづくりです。この象徴が、開発スタッフの技術情報をグローバルに共有するプラットフォーム「グローバルPDM(Product Data Management)」。  
ゆるぎない技術と品質を実現するため、各国・地域のスタッフがつながり、情熱を結集しています。



MISSION  
夢・情熱

# 2

私たちは、我社の共通の価値観をベースに、誇り、夢、情熱を持つ  
ひとつのチームとなります。

CK data

研究開発拠点・人員数  
(2016年3月末現在)

グローバル **8** カ国 **13** サイト 約 **2,700** 名 One Team

# Innovative

## 革新で社会に貢献する

先進的なモノづくりを通じて、持続可能な社会に貢献する。この象徴が、Green・Growth・Global・Great Companyをキーとした2011年度～2016年度中期経営計画「CK GX4 T10(シーケー ジーバイフォー ティーテン)」です。  
私たちは、4つのキーのひとつ、Greenすなわち「環境技術/製品の創出」において、業界をリードする環境対応型製品の開発へと情熱を注いでいます。



**MISSION**  
世界をリード  
する革新性

3

私たちは、創造性とモノづくり精神を融合し、高品質の製品とプロセスで、市場をリードする価値をお客さまに提供します。

CK data

CK GX4 T10 環境対応型製品  
(2011～2015年度)

9 製品創出(目標: 2016年度末10製品)



# Sustainable

## 調和を重んじ、夢を育む

企業市民として、自動車コミュニティの一員として、私たちにできること。創業以来、私たちは常に社会との調和を重んじる経営を貫いてきました。その心は、地域貢献やモータースポーツへの参画など、さまざまな場に息づいています。子どもたちにモノづくりの楽しさを体験してもらう「キッズエンジニア」への出展も、2015年度で9年目を迎えました。これからも、私たちの活動が、明日を担う世代が夢を育む一助となればと願っています。



MISSION 4  
持続可能な  
社会に向けて

私たちは、良き企業市民として、株主、地域社会、チームメンバーに価値を提供し続けることにより、社会的責任を果たします。



CK data

キッズエンジニア  
2015年度延べ参加児童数

約 **5,500** 名

サステナブルな社会に向けて  
～トップメッセージ～

# Going Forward

カルソニックカンセイ株式会社  
代表取締役社長

森谷 弘史  
*Hiroshi Moriya*

## 経営者挨拶

カルソニックカンセイグループは、コーポレート・ビジョンの達成に向けて、2011年7月に6カ年の中期経営計画「CK GX4 T10」を策定しました。この経営計画が目指したものは、日々変化を続ける世界経済・社会にしなやかに対応し、ともに成長を続ける「サステナブルな経営」です。同経営計画の実践を通じ、事業のさまざまな局面で社会の進歩・改善に貢献できることを考え続ける必要があります、その努力がグループのすべての職場に浸透していった結果、「法令遵守や倫理的行動を超える、カルソニックカンセイグループだからこそできるCSRとは何か」を全社規模で考える文化が生まれました。

この動きをうけ、カルソニックカンセイグループは、2015年度を「CSR元年」として活動を本格化させ、これまでのさまざまな活動をCSRとして統合するとともに、「CSR中期計画」を策定しました。これからも、CSRの取り組みのすそ野をグループ全体へと広げ、目標達成に向けて着実に前進し、持続可能な社会の実現に貢献できる会社を目指します。



## トップ対談



森谷 弘史

株式会社ニッセイ基礎研究所  
上席研究員 ESG研究室長

川村 雅彦氏  
Masahiko Kawamura

カルソニックカンセイグループは、「CSR元年」を宣言してから2016年度に2年目を迎えます。昨年、一昨年に引き続き、CSR研究の有識者であるニッセイ基礎研究所 上席研究員、ESG研究室長の川村雅彦氏と当社社長の森谷弘史が、CSRの取り組みの進化をテーマに議論を交わしました。

### 中期経営計画「CK GX4 T10」の進捗状況

**川村氏** まず、カルソニックカンセイグループの中期経営計画「CK GX4 T10」の進捗について、社長ご自身の評価をお聞かせください。

**森谷** 2016年度を最終年度とする「CK GX4 T10」では、売上高、営業利益、環境対応型製品の開発の3つを最重要コミットメントとし、GX4とあるように4つのG、Green、Growth、Global、Greatを成長戦略のキーとして掲げています。まずGrowthについては、目標である売上高1兆円以上を2015年度において前倒しで達成できました。また営業利益率7%は、円高などで予断を許さないものの2016年度で達成したいと考えています。Globalについては、新興国を中心に生産体制の整備を進め、現在、世界16カ国・地域78生産拠点に広がりました。Greenについては、10個の環境対応型製品を開発し、世に出すことを目標としていますが、2015年度までにすでに9製品を創出しており、目標達成は間違いなくと考えています。

**川村氏** 16カ国・地域78生産拠点というのは、名実ともにグローバルカンパニーといえると思います。グローバル展開が進めば、その分人権や労働などのリスクも増え、社会

的責任の範囲も広がりますね。最後のキーであるGreatですが、「モーニングスター社会的責任投資株価指数」にも初めて選定されたようですね。

**森谷** おかげさまで、ここ数年の業績は順調ですが、今後もドラスティックに成長していくことがGreatなのではなく、コントロールできない要因が出てきても持続的に成長できる、しなやかで強い企業体質をつくって初めてGreatといえると考えています。

CSRや経営の非財務的な側面についても効果測定できるKPI(主要指標)があると良いと考え、ESG(Environment、Social、Governance)投資の格付けへの組み入れやCSRランキングなどもKPIとしています。こうした結果は、自分たちの社会的な位置づけを再認識でき、従業員一人ひとりのCSRの取り組みへのモチベーションにつながっていくものだと考えています。

加えて、サステナビリティレポートの読者の皆さまからのアンケート結果において、「カルソニックカンセイで働いてみたい」という回答が75%となりました。私にとって大きなサプライズではあったのですが、これまでの取り組みが正しい方向に歩んでいる証左であると感じています。

## 2015年版サステナビリティレポートの第三者意見でのご指摘に対して

**川村氏** 2015年版のレポートにおいて、CSR経営の今後の課題について3つお話させていただきました。まず、課題のひとつであった海外拠点におけるCSRについて、進捗はいかがですか。

**森谷** それぞれの海外拠点にCSR担当者を配置することで、本社のCSRグループと海外拠点との連携を強化しました。とくに中国に力を入れ、同国から担当者を研修生として本社に受け入れました。

CSRは日本より海外のほうが進んでいるケースもあり、これまで各地域で行ってきた活動も含めてグローバルに体系立てることで、CSRマネジメントを明確化しました。

**川村氏** 次に、今日求められている社会課題の解決に、事業活動を通じて貢献していくことについてはいかがですか。

**森谷** グローバルリスクをはじめ、グローバルなESG投資の格付け機関で要求されている項目、さらには当レポートの読者の声など、社外のご意見も取り上げて社会的な課題を抽出し、マテリアリティマップを作成し、活動計画に落とし込みました。この活動計画がCSR中期計画です。



**川村氏** そして3つ目の課題としてあげた報告範囲の明確化について、まだまだ曖昧な企業が多い中で、貴社の状況はいかがですか。

**森谷** 確かに近年のCSRの取り組みでは、成果のとりまとめを厳密に行うために報告範囲を明確にする必要が高まっています。私たちのCSRの取り組み範囲はあくまでグローバルであり、今後、カルソニックカンセイと国内グループ会社を「日本」、北米・欧州・アジアを「海外」とした2つの軸で報告していきます。

## 2015年度の取り組み

**川村氏** ここ数年、CSRにおいて人権が大きな課題となっています。グローバルで事業における人権尊重を進めるとともに、ディーセントワークについても意識していくことが重要です。

**森谷** 2015年度の取り組みとして最も強調したい成果は、人権方針の策定です。人権方針については、現時点でできることはほぼすべて盛り込みました。今後の課題としては、世界各地の拠点ごとに、地域の文化に即した方針策定も検討していきたいと考えています。

**川村氏** とくに、サプライチェーンにおける人権・労働配慮が重要になってきていますが、取り組みの状況はいかがですか。

### CSR中期計画

「誠実」で「信頼」される企業を目指し、「働きがいのある職場」の実現と「社会課題に取り組む意識ある従業員」を育成し、「しなやかで強い」企業を実現するとともに、「持続可能な社会の実現」に貢献する

#### ① 従業員意識の向上

1. 働きがいのある職場の実現 (ディーセントワーク)
  - ・ワークライフバランスの推進
  - ・ダイバーシティの推進
2. 従業員の社会課題取組意識の向上

#### ② 社会との共生

1. 国際標準の人権・労働ルールへの対応
  - ・顧客のCSRガイドライン対応
  - ・各国法令対応 (英: 奴隷法、仏: CSR年次報告など)
2. 事業を通じた社会課題解決

#### ③ 企業価値の向上

1. 中期経営計画の達成
  - ・グリーン(環境対応型製品開発など)
  - ・グレートカンパニーの実現
2. CSR活動の強化
  - ・SRI評価機関指摘事項の改善など (東洋経済、FTSE、CDP)

**森谷** サプライチェーンについては、新興国だけでなく、日本国内においても多くの外国籍の方が働くようになったり、2次、3次が海外だったりして、内なるグローバル化も進んでいるため、ティアNまで、しっかりと取り組まなければならないと考えています。2015年度においてサプライヤーCSRガイドラインを改定し、お取引先との対話と協力をより積極展開しています。その上でサプライチェーンにおける問題点をしっかりと洗いだして、一つひとつ解決していきます。そのためにデューデリジェンス活動を行っていると考えています。

## CSR中期計画の策定

**川村氏** CSR中期計画を策定することは先進的ですが、そのポイントはどのようなものですか？

**森谷** CSR中期計画の目指すところは、「誠実で信頼される企業」「働きがいのある職場」「社会課題に取り組む意識ある従業員」を実現し、その上で「しなやかで強い会社」になるとともに、「持続可能な社会の実現」に貢献することです。

**川村氏** 経営環境や社会構造が変わっていく中で、既存のビジネスモデルを活かしつつ、新しいものをどのように構築していくか。それを社内外のステークホルダーと議論して見つけ出していくことが、「しなやかな経営」のポイントになりますね。

**森谷** そのとおりです。「しなやかで強い会社」とは、財務面ではどうか、非財務面のしなやかさや強さとはどういうことなのか、これを模索していかなければならないと考えています。



**川村氏** 最後に、CSRの目標として「社会の持続可能な発展」への貢献を掲げていますが、これを実現するためのアクションプランをお聞かせください。

**森谷** 社会の持続可能性と自社の持続的な成長は両輪であると考えます。そのために、まず売上高を伸長させ、世界のさまざまな市場での経済悪化や為替の変動があっても、長期的、持続的に収益を出し、安定した経営ができる体質、体力を備えたいと考えています。この達成に向けた重点課題は大きく3つあります。ひとつ目は「従業員意識の向上」であり、その基盤として働きがいのある職場づくりを行うとともに、社会的なイノベーションを創出していくために、自ら社会課題を察知できる人財を育成し、課題解決のために取り組んでいくこと。2つ目は「社会との共生」で、国際的な人権・労働憲章に適応した事業活動を行っていくことです。この2つに真摯に取り組んでいくことで、持続可能な社会の実現に貢献していくとともに、3つ目として「企業価値の向上」を実現していくというものです。この3つにKPIを設定して、アクションプランを立て、中期計画の柱として進めていきます。

**川村氏** 本日はありがとうございました。今後のCSR経営の進展に期待いたします。

## 第三者意見

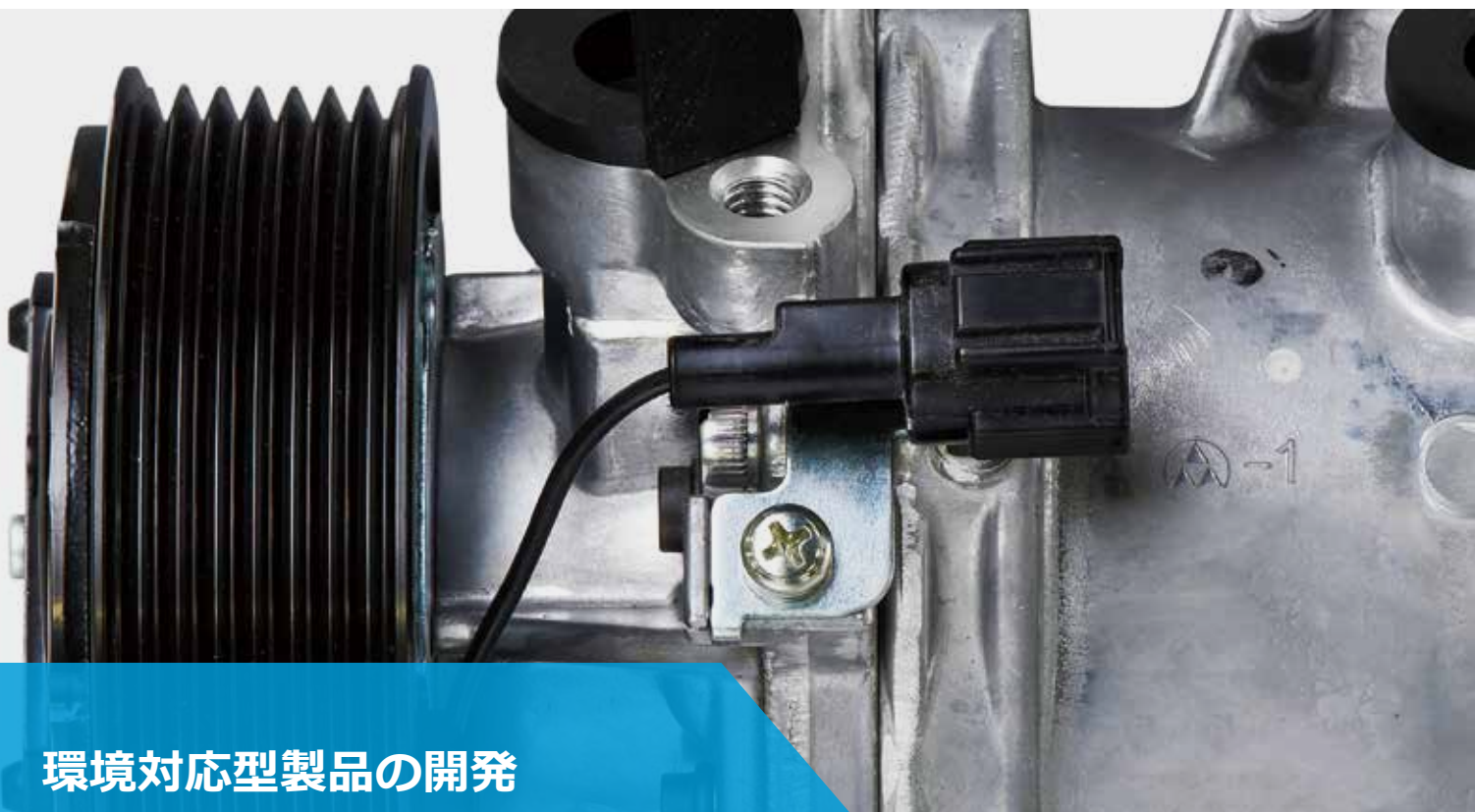


株式会社ニッセイ基礎研究所  
上席研究員 ESG研究室長  
川村 雅彦氏

カルソニックカンセイグループの「CSR元年」としての2015年度の活動について特筆すべきことは、森谷社長の強いリーダーシップのもと、本格的にCSRを経営の根幹に取り込み、その改革と前進を驚異的なスピードで推進したことである。グローバルにCSRを定着させる組織づくり、環境対応型製品の創出、サプライヤーCSRガイドラインの改定、そして、人権方針やCSR中期計画の策定など、この1年間での活動は評価されるべき内容であると考えます。

今後、自動車業界は自動車そのものの在り方の変化などにより、大きなビジネスモデルの変革が発生することが予想される。そのようなドラスティックな変化の中で、カルソニックカンセイグループが目指す「しなやかで強い会社」とはいかなるものなのか。

ここで2つの期待を述べたい。ひとつは、ステークホルダーとの対話の強化である。多様なステークホルダーとダイアログ（対話）を実施する、投資家向けにESG説明会を開催するなど、対話を通じて課題を見出し経営に反映させていくこと。そして2つ目は、2030～2050年を見据えた超長期の目標を立て、バックキャストでCSR経営を進めていくことである。次代の自動車業界を担うグローバル企業として、今後の取り組みに大いに期待したい。



## 環境対応型製品の開発

# DELIVERING *Our Green Potential*

環境対応型製品の創出で社会貢献する—カルソニックカンセイグループは、2016年度末までに環境対応型製品を10製品創出することを目標に掲げ、省燃費や軽量化など、さまざまな切り口から「グリーンな社会づくりに貢献する、世界最先端のモノづくり」にまい進しています。

### 中期経営計画の重要課題として

カルソニックカンセイグループは、事業活動を通じた社会課題解決への最大の貢献は環境対応型製品の創出であるとの考えのもと、中期経営計画の重要課題として取り組んでいます。中期経営計画では、成長戦略のキーのひとつとして“Green”を掲げ、世界をリードする環境技術／製品の創出によって、次世代環境製品で業界をリードすることを目指しています。2016年度末までに環境対応型製品を10製品創出することを目標に、すでに2015年度までに9製品を市場に投入しました。

また、2015年度は環境対応型製品におけるCO<sub>2</sub>排出削減量などの効果を社内外に効果的に伝えることを目的に、環境パフォーマンスの見える化を図りました。これにより、さらなる環境対応型製品の開発および普及を目指していきます。

### 製品のライフサイクル全体での環境配慮

カルソニックカンセイグループは、独自のLCA(ライフサイクル・アセスメント)算出プログラムを策定し、製品のライフサイクル全体で発生する環境負荷低減を目指した製品開発に取り組んでいます。

具体的には、省燃費・省動力、小型・軽量化、リサイクルの容易化、有害化学物質の不使用・極少化などの配慮すべき要件があります。これらの要件を製品へ適応するためには、開発の初期段階からの配慮が必要であり、QCD(Quality、Cost、Delivery)・特許面での評価に加え、E(環境側面)での評価も実施することにより、環境対応型製品の開発をさらに徹底したものにしていきます。

現在、最も環境に配慮した自動車である電気自動車向けにおいても、製品開発を進めています。

## 中期経営計画「Green」実行状況

■ 2016年度末までに世界をリードする環境対応型製品を **10** 製品創出

ポスト中期経営計画目標



## 環境対応型製品 ハイライト

### 高性能薄型ビルトインオイルクーラー/ウォーマー



ビルトインオイルクーラー/ウォーマーは、トランスミッションオイルの冷却だけでなく、エンジン始動時に速やかに適温まで暖めフリクションロスを低減させて燃費向上およびCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献します。また、近年はエンジンルーム内のレイアウト性向上の高まりから、これまでと同等性能で半分のサイズ(高さ)を実現したラインアップを追加しました。これによりリデュースも図られています。

#### KEY PERFORMANCE

性能

従来品同等

サイズ(高さ) 低減

△ **35** mm  
(当社従来品比)

### 射出成形表皮インストゥルメントパネル



インストゥルメントパネル用表皮を汎用射出成形機で製造し、従来の高級車用パウダースラッシュ工法表皮の質感と同等の高い質感を維持しながら、低コスト・低環境負荷を世界で初めて実現しました。これは日産自動車株式会社と共同開発したもので、表皮製造工法を大幅変更(熱効率向上)することによって、従来と比較してサイクルタイムを82%短縮し、CO<sub>2</sub>排出量を47%も減少させることに成功しました。

#### KEY PERFORMANCE

サイクルタイム短縮

△ **82** %

CO<sub>2</sub>排出量削減

△ **47** %  
(当社従来品比)



## 多様な人財の尊重と育成

# DELIVERING *Equality and Diversity*

すべての人が、生き活きと働ける社会の実現に貢献する — カルソニックカンセイグループでは、ともに働くすべての従業員の多様性を尊重し、活かす姿勢を重視し、多面的な活動を続けてきました。そのフィールドは国内から海外へと広がりつつあります。

### 着実に成果をあげる、ダイバーシティの取り組み

カルソニックカンセイグループは、従業員一人ひとりの行動指針として2008年4月にCK WAYを導入し、ダイバーシティをその重要な要素と位置づけ、その啓発・浸透に向けた取り組みを展開してきました。具体的には、2009年6月に社長直轄で「ダイバーシティプロジェクト」をスタートし、2010年7月には同プロジェクトからの提案を受けダイバーシティ推進ネットワーク「Shine.net」を立ち上げ、取り組みの対象をグループ全体へと広げてきました。

活動が多面的かつ職場に根差したものであることも、大きな特徴です。トップからのメッセージの発信、外部有識者を招いての講演といった啓発活動はもちろん、各部門、工場、グ

ループ会社の従業員により構成される「Shine.net」のもと、職場単位で意見を交わす「ラウンドテーブル」も活発に展開し、その中から出た従業員の声を会社の制度改定や職場づくりに反映させています。

2015年8月には「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」が制定されるなど、現在、多様性への社会の関心は高まり続けています。カルソニックカンセイでは、2021年度までに女性管理職比率を現状の2倍とする目標を掲げるなど、これからも、多様性に配慮し、一人ひとりの個性を活かす「人財」育成を徹底し、従業員と「ともに成長する」経営を強化していきます。

### これまでの主な活動

2009年 6月	ダイバーシティプロジェクト発足	2014年 3月	「育児、時短勤務について考える」ワールドカフェ開催
2010年 7月	ダイバーシティ推進ネットワーク「Shine.net」発足	2014年 9月	東洋大学とのPBL (Project Based Learning: 問題解決型学習) 開催
2010年 9月	ラウンドテーブル実施(さいたま・群馬・佐野・吉見・児玉地区)	2014年 11月	「ワークライフバランスについて考える」ラウンドテーブル実施
2011年 10月	育児・介護と仕事を両立させるためのラウンドテーブル実施	2015年 2月	グループ各社・工場でのダイバーシティイベント開催
2012年 5月	年次ミーティング実施	2015年 3月	ダイバーシティ勉強会・ワールドカフェ開催



## 女性の活躍を促進する取り組み

カルソニックカンセイグループは、すべての従業員が、出産・育児・介護といったライフステージに即しつつ能力を最大限発揮できる職場や働き方の実現を目指しています。この実現に向け、とくに女性はライフステージの影響が大きいことに留意し、従業員の意識調査、働き方向上委員会や「Shine.net」によるVOC (Voice of Customer) 集約などを行いながら、諸施策に反映させています。

2015年度は、ダイバーシティについて全社横断で考える年次ミーティングを実施しました。同ミーティングでは、日経BP社 日経BPヒット総合研究所長・執行役員である麓 幸子(ふもと さちこ)氏による『女性が活躍する組織をつくるには』をテーマとした講演や、女性管理職として活躍している高崎 浩美さんと森谷社長との対談など、女性の活力をいかに企業が取り入れていくかについて積極的な議論が行われました。また、グループ会社における「ラウンドテーブル」なども活発になってきており、工場同士の意見交換会や異業種との交流など、新しい動きへと発展しています。



ダイバーシティミーティングの様子



女性管理職として活躍している高崎 浩美さんと森谷社長との対談の様子

## グローバルな多様性を活かす取り組み

事業のボーダーレス化を受け、多様性を活かす取り組みも、よりグローバルに拡大し続けています。具体的には、採用活動においては、外国籍従業員の採用拡大や留学生採用に加え、国外の大学を卒業する学生を直接採用する取り組みも続けています。

グローバルな多様性を活かす職場の実現には、ともに働く一人ひとりの問題意識や文化、価値観の多様性を理解する仕組みが必要です。このような観点から、中堅社員、働き盛り世代を対象にしたグローバルなダイバーシティプログラムも、着実に進んでいます。「グローバルビジネスリーダートレーニング」はカルソニックカンセイグループの将来のビジネスリーダーに対するトレーニングです。国内外から多くの従業員が参加し、英語で議論を行う同プログラムでは、コミュニケーション/プレゼンテーション論や戦略構築、社会倫理など、多岐にわたるテーマが議論されます。将来のリーダーにとって必要な知識を習得するのみならず、世界視点での多様性の理解促進、ひいては国を超えた人財のグループネットワークづくりとしても役立っています。



英語で実施される将来のビジネスリーダーへのトレーニング



グループに分かれてテーマを議論



モータースポーツを通じて

## DELIVERING *Our Passion*

カルソニックカンセイは、長年にわたり、国内外のトップカテゴリーのレースへの参戦を続けてきました。その背景には、絶え間ないイノベーションにより良い社会を実現することと、モータースポーツを通じて豊かな文化を育むことへの、絶えることのない情熱があります。

### 限界に挑戦し、さらなる技術向上をもたらす

カルソニックカンセイグループには、世界の至るところで活躍する自動車の部品を供給し、安全・安心を提供する責任があります。そのために、どのような気候や環境、使用条件でもいかに性能が発揮できるよう、万全を期して製品開発に取り組んでいます。

その活動のひとつとして、モータースポーツへの製品供給の取り組みがあります。レースという極限状態での使用にも耐え、高い性能を発揮する、熱交換器を中心としたカルソニックカンセイグループの製品。過酷な環境下でも製品を常に正常に機能させるための、さまざまな技術的工夫や課題を、レースを通じて検証しています。

カルソニックカンセイグループは、これからもさらなる技術向上のために、モータースポーツを通じた製品開発に取り組み、皆さまに安心していただける製品の提供につなげていきます。

### 夢と絆を提供し、モータースポーツを文化に

日本のモータースポーツの歴史は、モータースポーツ統括団体である、一般社団法人日本自動車連盟が創設された1962年にさかのぼります。翌1963年に「第1回日本グランプリ」が開催され、カルソニックカンセイグループは1982年から30年以上にわたりモータースポーツに参画しています。

モータースポーツは、レースを通じて観客がひとつになってチームを応援し、その中で強い絆が生まれるスポーツです。カルソニックカンセイグループは、モータースポーツを通じて従業員や家族、さらには車好きの皆さまの夢と絆に貢献したいと考えています。

また、日本の自動車産業は、500万人以上といわれるほど、膨大な就労人口を抱えています。自動車産業をさらに発展させていくためにも、モータースポーツを通じて「車好き」を増やしていくことは重要な使命であると考えています。



### マクラーレンとのサプライヤー契約でより高い次元へ

カルソニックカンセイは、世界最高峰レース フォーミュラ1のトップチームである「マクラーレン・ホンダ」と複数年にわたるオフィシャルサプライヤー契約を結びました。マクラーレンレーシングとの関係は、1992年にさかのぼり、これまでレーシングカー向けの熱交換器を供給してきました。このたび、複数年にわたるグローバルでのパートナーシップを結んだことで、これまで以上に緊密な関係を築いていきます。

フォーミュラ1は国際的なモータースポーツの頂点であり、世界一過酷なレースのひとつに数えられています。今回のマクラーレン・ホンダとの提携関係の強化は、極限の技術革新の現場での製品開発を加速する機会であり、カルソニックカンセイは自らの技術力を高め、その成果を幅広い皆さまに向けた製品づくりへとフィードバックしていきます。また、カルソニックカンセイグループは、従業員がグローバルに目指す姿(タグライン)として「夢と革新を原動力として」意欲的に取り組むことを掲げており、マクラーレン・ホンダフォーミュラ1チームへの参加はエンジニアならびにスタッフのモチベーション向上にも大きく寄与しています。



マクラーレン・ホンダ フォーミュラ1カー

### 国内モータースポーツの発展のために

カルソニックカンセイが参戦する「SUPER GT」は、1994年にスタートした全日本GT選手権(JGTC)がその前身です。高性能な市販GT(グランド・ツーリング)カーをベースにした競技車両を用いる同レースには、常に国内外の有名メーカーや有名チームの車両が集い、その数は2015年シーズン開幕時では45チーム・17車種に上りました。ドライバーの多彩さのみならず、シーズンをとおしたレースバランスに配慮したウェイトハンディ制の採用なども特徴であり、同レースは毎年50万人近くの観客を動員するなど、国内屈指の人気を誇るレースです。また、ファンや地元の皆さまとの交流にも力を入れており、さまざまなイベントを開催して、幅広い世代に夢と感動を提供しています。

なお、星野一義監督率いるカルソニックIMPUL GT-RのSUPER GT 2015年シリーズは、惜しくもシリーズランク2位となりました。惜敗という悔しさをバネに、一層白熱したレースで、モータースポーツファンの皆さまと感動や絆を分かち合っていきます。



左から、安田ドライバー、星野監督、オリベイラドライバー

# 責任感を持ち、誠実に

## ～継続的なCSR活動～

### サステナビリティ経営の方針

カルソニックカンセイグループはグローバル社会の一員として、お客さまやお取引先など、すべてのステークホルダーからの信頼と期待に応え、ともに発展していくことが必要であると考えています。

このような認識のもと、私たちは目指す姿である「コーポレート・ビジョン(企業理念)」、「ミッション・ステートメント(使命)」とビジョン達成のために従業員が持つべき「バリュー:CK WAY(行動指針)」を設定し、社会倫理に基づいた事業運営を行っています。

カルソニックカンセイグループの理念体系



### コーポレート・ビジョン(企業理念)

— 長期にわたる方向性を具体的に表す言葉 —

**グローバルな自動車関連企業として、世界をリードする技術革新とモノづくりに情熱を持って取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します**

### ミッション・ステートメント(使命)

— ビジョンを追求するための具体的な目標 —

#### グローバル(Global)

私たちは多様な考え方を尊重し、ダイナミックな行動により、世界有数の自動車部品メーカーとしてのブランドを構築します。

#### 夢・情熱(Inspired)

私たちは、我社の共通の価値観をベースに、誇り、夢、情熱を持つひとつのチームとなります。

#### 世界をリードする革新性 (World Leading Innovation)

私たちは、創造性とモノづくり精神を融合し、高品質の製品とプロセスで、市場をリードする価値をお客さまに提供します。

#### 持続可能な社会に向けて(Sustainable Society)

私たちは、良き企業市民として、株主、地域社会、チームメンバーに価値を提供し続けることにより、社会的責任を果たします。

### バリュー:CK WAY(行動指針)

#### 個人(Individual)

1. 挑戦(Challenge)
2. 自律(Independence)
3. 学ぶ(Learning)

#### 実行(Task)

1. 事実を捉える(Fact-Driven)
2. 継続性(Continuous)
3. コミット&ターゲット(Commitment & Target)

#### チーム(Team)

1. クロスファンクション/クロスリージョン  
(Cross Function / Cross Region)
2. 人への愛着(People Oriented)
3. ダイバーシティ(Diversity)
4. 透明性(Transparency)

## CSR方針

### ステークホルダーと社会への責任

カルソニックカンセイグループの「CSR方針」は、「コーポレート・ビジョン」を実現するために、すべてのステークホルダーと社会に対して実行をお約束する責任と指針です。

この方針に基づいて、従業員一人ひとりが社会的責任を自覚し、誇りを持って日々の活動を行うこと、社会的側面、環境的側面、経済的側面からバランスの良い事業運営を行うことで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

#### お客さまへの責任

多様化する時代の要請と期待に応え、お客さまにご満足いただける質の高い製品とサービスを提供し、信頼されるNO.1サプライヤーを目指します。

##### 主な対話機会

日常の営業・提案活動、顧客満足度調査、展示会、情報交換会

#### お取引先への責任

部品・サービスを提供していただくお取引先とイコールパートナーとして連携し、公正で倫理的な事業慣行を通じて、相互に競争力の向上と持続的な成長を図ります。

##### 主な対話機会

日常の調達活動、サプライヤーズミーティング(方針説明会、連絡会)、サプライヤー監査

#### 従業員への責任

社員一人ひとりの多様性と価値が尊重され、より企業と社会に貢献できる人格育成の場と安全で健康な環境が提供されて、誰もが夢と情熱と誇りを持って豊かな人生を送れる企業づくりを目指します。

#### 従業員の安全衛生責任

『従業員の安全と健康の確保はすべてに優先する』という基本理念のもとに、全員参加で業界トップの安全で適正な職場を実現します。

##### 主な対話機会

人事評価、従業員満足度調査、従業員表彰制度、労使懇談会、相談窓口、各種カウンセリング

#### 株主・投資家への責任

持続的に競争力ある製品を開発し収益の向上につなげるとともに、公正な事業運営と積極的な情報開示を行って企業価値を向上させ、株主・投資家に還元します。

##### 主な対話機会

株主総会、IRサイト、決算説明会、施設見学会、勉強会、個別面談、事業報告書

#### 社会への責任

##### モノづくり

環境技術、安全技術、快適技術の3つの技術分野を重点課題として取り組み、製品を通じて車社会に貢献します。

**環境**：地球環境に優しい車づくりのために

**安全**：事故の無い車社会づくりのために

**快適**：快適に運転できる車づくりのために

##### 環境

従業員一人ひとりが常に自然の原点に立ち返るとともに、新たな技術統合による知的革新を通じて地球環境保全に努め、心豊かな社会の発展に貢献します。

#### 社会活動への参画・社会貢献

事業活動全般にわたり、かかわりのある地域社会や社会活動に積極的に参画し、良き企業市民として社会の持続的な発展に貢献します。

##### 主な対話機会

キッズエンジニア・小学校への出前授業活動、清掃活動、環境コミュニケーション活動

## カルソニックカンセイグループのKPI(主要指標)

2015年度、カルソニックカンセイグループは、グローバルの社会課題を抽出し、「自社への影響」「ステークホルダーへの影響」「発生頻度」「リスク回避への対応度合い」を評価し、ISO26000の中核主題別に、重要課題を特定しました。また、それぞれの重要課題ごとにKPIを設定し、目標達成に向けて活動を推進していきます。

## 2015年度の実績

内部通報件数

309件



紛争鉱物使用調査会社数  
(カルソニックカンセイ)

285社

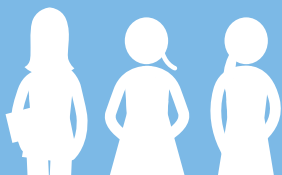
目標毎年250社以上



女性管理職比率  
(カルソニックカンセイ)

2.3%

2021年度目標 現状の2倍



環境対応型製品創出数

9製品

2016年度目標10製品



行動規範教育・誓約率

100%

2018年度目標100%継続



品質システム評価基準(QSES)  
監査員数

199人

2018年度目標270人



社会貢献活動支出  
(カルソニックカンセイ)

9.6百万円



### カルソニックカンセイグループのアプローチ

カルソニックカンセイグループは、事業活動を通じて豊かな社会づくりに貢献し、すべてのステークホルダーとの良好な関係を築くことが重要であると認識しています。そして、社会から信頼され続ける企業であるために、CSRを強く意識したコーポレート・ガバナンスを整備し、遵法で倫理的な経営を徹底すると同時に、リスクマネジメントを強化し、「万一」の時にも安定的に製品を供給できる体制を構築しています。

## 2015年度 活動ハイライト

### CSRに関係するガバナンスの体制

カルソニックカンセイグループは、環境・社会的側面からガバナンスを強化する仕組みを強化しています。具体的には、環境、安全、情報セキュリティなどのテーマに即して役員を責任者とした委員会を設定し、それぞれの活動のPDCAサイクルを統括しています。とくにリスクマネジメント委員会では、グループ全社の4つの重大リスク「大規模災害」「生産継続(供給リスク)」「品質」「中国CCC認証」を特定し、実行計画に基づ

き対策の策定、実行状況、対策結果の評価を実施しています。この活動を通じてリスク発生の回避・軽減に努めるとともに、適正なリスクレベルを確保することで事業拡大のチャンスにもつなげています。

CSRは、これらの委員会と密接な連携を行って、活動を強固なものとし、さらなる充実を目指しています。

### CSRのガバナンスを担う各種委員会

委員会	取締役会報告	経営会議	担当役員の主管部門・役職
リスクマネジメント委員会	年3回 (合同で報告)	年3回	グローバル組織活性化本部・常務執行役員
情報セキュリティ委員会		年2回	グローバル業務改革本部・副社長執行役員兼最高情報責任者
コンプライアンスリスク管理委員会		年1回	グローバル組織活性化本部・常務執行役員
安全衛生管理		年4回	グローバル組織活性化本部・常務執行役員
環境統括会議		年2回	グローバル生産本部・副社長執行役員
輸出管理委員会		年2回	グローバル組織活性化本部・常務執行役員
内部監査(室)		年2回	年2回

### BCPの整備

カルソニックカンセイグループは、地震や台風などの災害発生に対するBCP(事業継続計画)として「防災管理規定」を設定。この規定に基づく行動ガイド「全社防災マニュアル」を整備しています。さらに、2014年度より安否確認システムを導入し、年間訓練計画に基づき訓練を重ねており、国内グループ事業所は、2015年度より順次導入しています。

近年は、震災からの教訓として、有事における地域インフラの復旧への貢献も、BCPの重視項目に位置づけて取り組みを進めています。2015年度は、カルソニックカンセイ研究開発センター・本社に「地下水膜ろ過システム」を設置しました。このシステムは、地下水を汲み上げて、高度な膜ろ過処置を施して安全な飲料用の水をつくり出すもので、災害時に上水道

が利用できない状態でも、飲料水を帰宅困難な従業員および周辺住民の皆さまに供給できるようになりました。



地下水膜ろ過システム

## 人権 人権を尊重する企業風土であるために

### カルソニックカンセイグループのアプローチ

カルソニックカンセイグループは、「カルソニックカンセイ行動規範」において、多様性および人権の尊重を明示しています。さらに2016年4月には「人権に関する基本方針」および「人権についての重点方針」を制定しました。これらを具体的な指針として、人権および労働への配慮に向けた従業員教育を徹底すると同時に、サプライチェーンへの人権尊重の浸透を目指したアクションをグループ全体で加速します。

## 2015年度 活動ハイライト

### 人権方針の制定と教育・啓発

カルソニックカンセイグループの「人権に関する基本方針」および「人権についての重点方針」は、グローバル化する事業の現状を考慮し、「国際人権章典」「ビジネスと人権に関する指導原則」「グローバルコンパクト」「労働の基本原則及び権利に関する宣言」などの国際規範を支持する内容です。さまざまな国・地域で、人種・文化などを尊重して業務を行っていくよう、グループ全従業員に対して人権方針を徹底するための教育・啓発を進めていきます。

2015年度より人権方針策定などの準備を開始し、初回として2016年入社の新卒約120名を対象に「公益財団法人人権教育啓発推進センター」が発行しているビデオと冊子を使用し、人権教育プログラムを実施しました。また、毎

週全従業員向けに発行しているCSRニュースでも人権に関する内容を取り上げ、従業員の人権に対する啓発を行っています。



新入社員研修の様子

### サプライチェーンでの人権尊重

2012年8月、コンゴ民主共和国および周辺国の紛争地域で採掘され、武装勢力の資金源となっている可能性のある4鉱物の使用有無について報告を課す法案の細則が米国で制定されるなど、経済のボーダレス化を背景として、企業に対しサプライチェーン全体を視野に入れた人権尊重体制の整備を期待する声が高まっています。カルソニックカンセイグループは、紛争地域での人権侵害行為を抑制する観点から「紛争鉱物に対する取り組み方針」を策定し、2013年度よりサプライチェーンへの調査を継続して実施しており、2015年度は285社の調査を行いました。

紛争鉱物の問題に限らず、途上国における人権配慮を徹底したサプライチェーンの構築は、グローバル企業の責任として重みを増しています。これを受け、お取引先の人権調査も含めたCSRデューデリジェンスに向けた活動を開始し、初回として対象5社を選定しました。今後、毎年規模を拡大し内容も充実した調査内容に改善を図っていきます。



## カルソニックカンセイグループのアプローチ

カルソニックカンセイグループは、グループ全体で共有すべき価値観として「CK WAY (行動指針)」を設定し、すべての従業員が生き活きと働くことができる職場づくりを目指しています。またキャリア体系についても、一人ひとりの能力・多様性を活かすことを重視し、評価制度はもちろん、人財育成制度の充実を図っています。さらに、多様化する従業員のライフスタイルを支援するため、ワークライフバランスにも力を入れています。

## 2015年度 活動ハイライト

### 人財育成

カルソニックカンセイグループは、会社の持続的な成長を実現するのは何よりも人財であるとの考えのもと、「モノづくり」「グローバル」に重点を置いた人財育成を行っています。

#### ●モノづくり人財の育成

グローバル競争の中で鍛えられたモノづくりをさらに高め、それをグローバルに水平展開していくため、カルソニックカンセイのモノづくりの基本であるCKPS(カルソニックカンセイプロダクションシステム)研修や各種専門技術研修などを通じて、知識・技術習得を計画的に行っています。

また、モノづくりに必要な技能を明確にするため、技能マイスター制度を導入しています。現在、技能はもちろんのこと、従業員の鑑として、周囲の誰もが認める9名がマイスターとして活躍しています。

### ワークライフバランス

カルソニックカンセイおよび国内グループ会社は、すべての社員が、さまざまなライフステージや一人ひとりの事情や価値観に応じ、安心して生き活きと働けるための人事・福利厚生制度の充実を図っています。

2016年度より、結婚休暇取得可能期間の拡大、勤続年数1年未満の従業員に対する有休付与日数を引き上げるなど、ワークライフバランス向上への制度改定を行うほか、多様な働き方を支えるためのテレワーク勤務(在宅勤務など)の導入に向けた取り組みなどを継続して行っています。

また、出産・育児・介護を支援する制度の充実にも力を入れており、育児のための時短勤務可能期間を小学校卒業年まで拡大したほか、2016年度からは、扶養家族の支給対象範囲拡大、育児休業期間の拡大、休業取得中の「定期面談制度」を導入

#### ●グローバル人財の育成

次世代のグローバルビジネスリーダーを育成することを目的に、日本を含む各国・地域のリーダー候補を対象に英語による集合研修、アクションラーニングを行うGBLT(グローバルビジネスリーダートレーニング)を毎年実施しています。



GBLT(グローバルビジネスリーダートレーニング)の様子

するなど、キャリア継続とスムーズな職場復帰を支える制度の拡充を年々進めています。2015年5月には、厚生労働省埼玉労働局より、次世代育成支援対策推進法に基づく基準に適合した「子育てサポート企業」に認定され、厚生労働大臣の認定マーク「くるみん」を取得しました。

さらに、日本社会の少子高齢化の動きにも対応し、熟練者である定年退職者への再雇用施策を人財活用の重要項目として位置づけています。



厚生労働大臣の認定マーク「くるみん」

### カルソニックカンセイグループのアプローチ

カルソニックカンセイグループは、すべての活動における基本的な考え方として環境方針を定め、これに基づき人類共通の課題である地球環境の保全に努めています。

グループで環境方針を共有し、企業活動の全段階において環境負荷低減を図るとともに、環境対応型製品を創出していくことにより、社会やお客さまなど、ステークホルダーの皆さまから信頼され、企業と社会の持続可能な発展に向けてまい進していきます。

## 2015年度 活動ハイライト

### 低炭素社会の実現に向けて

カルソニックカンセイグループは、電力や燃料など、生産活動で直接的・間接的に排出する環境負荷を定量的に把握し、低炭素社会の実現に向けてカーボン・ミニマム(環境負荷低減活動)に取り組んでいます。

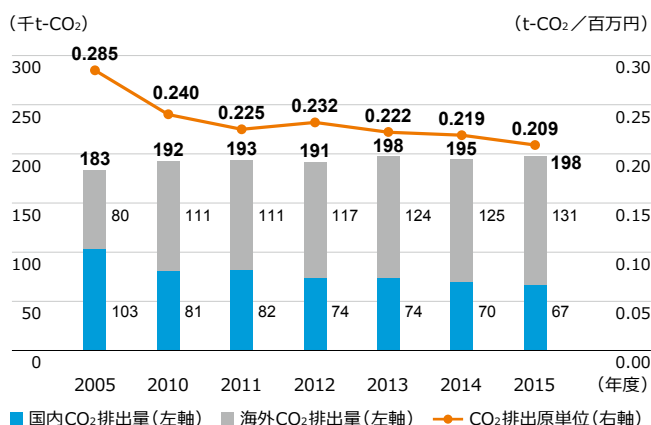
2011年度から2016年度までの中期経営計画「CK GX4 T10」にあわせ、「カルソニックカンセイグリーンプログラム2016」として2016年度の目標と年度ごとのマイルストーンを定め、達成に向けてグループ全社で取り組んでいます。

2015年度のCO<sub>2</sub>排出量は、2005年度比で日本が34.9%削減、生産拠点の増えた海外では64.3%増加となりました。排出原単位(CO<sub>2</sub>排出量/売上高)では2005年度比で日本が29.6%削減、海外が26.1%削減となりました。

日本は前年度に引き続き、全拠点参加で「省エネ特別活動」を展開し、省エネ改善事例の共有と省エネルギー診断によるアイテム抽出を行い、改善につなげました。海外では、2014

年度に実施した省エネルギー診断アイテムの効果確認を行い、取り組みを進めました。

### カルソニックカンセイグループのCO<sub>2</sub>排出量と排出原単位推移



### 資源循環/3R (Reduce, Reuse, Recycle) の推進

「カルソニックカンセイグリーンプログラム」では、3Rの取り組みとして資源循環を重視し、排出物削減と埋立率ゼロ (Zero Landfill) に取り組んでいます。

排出物原単位(排出量/売上高)は、日本は2005年度比16.4%削減、海外は2010年度比5.0%削減を目標に活動を推進し、2015年度は日本27.0%削減、海外17.9%削減とそれぞれ目標を達成しました。

埋立率ゼロ(埋立量/廃棄物量)については、日本は2006年度ですでに達成しており、海外では0.2%以下の維持を目標として、主に廃棄物分別方法の見直しにより、目標を達成しました。

また、世界的な水不足などの環境問題を受け、国内外の全グループ会社で水使用量削減に取り組んでおり、2015年度は、水使用量原単位(使用量/売上高)2014年度比2.0%削減を目標として定め、日本2.5%削減、海外15.1%削減とそれぞれ目標を達成しました。

## 公正な事業慣行 責任あるビジネスを徹底するために

### カルソニックカンセイグループのアプローチ

カルソニックカンセイグループは、事業を円滑に推進していく上で、すべての従業員が高い倫理観を持ってコンプライアンスを実践することが重要であると認識しています。2003年に「カルソニックカンセイグローバル行動規範」を制定したことを契機に、グローバルなコンプライアンス体制の強化に向けて従業員の教育・啓発を徹底しています。また近年はお取引先とのコミュニケーションを強化し、サプライチェーン全体で取り組みを推進しています。

## 2015年度 活動ハイライト

### コンプライアンス教育・啓発

カルソニックカンセイグループは、行動規範のトレーニングを毎年実施し、誓約書の回収を行い、コンプライアンスに対する意識づけを強化しており、2015年度の誓約書回収率は、国内・海外ともに100%となりました。

また、行動規範の教育の一環として、グローバルリスクとしての「独占禁止法」「賄賂防止法」および「輸出管理規制」に関する教育も適宜実施しています。とくに「独占禁止法」「賄賂防止法」に関しては、社内で基本ポリシー・ルールを策定し、カルソニックカンセイグループ全社において周知化と啓発を行っています。



コンプライアンス研修の様子

### サプライチェーンマネジメント

カルソニックカンセイグループは、お取引先をイコールパートナーと位置づけ、相互信頼を基本に公平かつ公正な関係を維持しながらお互いの持続的な成長を目指しています。カルソニックカンセイグループの事業展開のグローバル化に伴い、サプライチェーンもグローバルに広がる中、CSR活動を推進するために私たちの考え方や方針をお取引先と共有しながらCSRマネジメントの向上を目指しています。

2015年度は、「カルソニックカンセイ サプライヤーCSRガイドライン」を作成し、主要なお取引先に展開しました。さらに2016年度に内容の充実を図り、改定を予定しています。

引き続きCSRへの協力を継続して要請し、贈賄防止などコンプライアンス徹底などへの協力をお願いしていきます。



2015年度 主要お取引先方針説明会の様子

### サプライヤーCSRガイドラインのポイント

① 安全と品質	② 人権と労働	③ 環境	④ コンプライアンス	⑤ 情報開示
<ul style="list-style-type: none"><li>顧客のニーズに応える製品やサービスの提供</li><li>製品やサービスの提供</li><li>製品やサービスの品質確保</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>差別の禁止</li><li>人権尊重</li><li>児童就労の禁止</li><li>強制労働の禁止</li><li>賃金の法令遵守</li><li>労働時間の法令遵守</li><li>従業員との対話・協議</li><li>安全で健康な労働環境の確保</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>環境マネジメント</li><li>温室効果ガスの排出削減</li><li>大気、水、土壌汚染の防止</li><li>省資源、廃棄物削減</li><li>化学物質の管理</li><li>生態系の保護</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>法令（競争法、輸出関連法規）の遵守</li><li>汚職防止</li><li>機密情報の管理</li><li>知的財産の保護</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ステークホルダーへの情報の開示</li></ul>

## 消費者課題 お客様満足度を向上し続けるために

### カルソニックカンセイグループのアプローチ

カルソニックカンセイグループが重視する「品質」とは、パフォーマンス向上はもちろんのこと、安全性や信頼性の確保、快適性の実現も含む、多様なお客さまのご期待に応えるためのものです。この考えに基づき、品質を会社全体の最重要課題ととらえ、開発・設計、生産、物流などすべてのプロセスで高い品質を提供するために活動を続けています。また、顧客満足度調査を継続的に実施するなど、お客さま対応力の向上にも注力しています。

## 2015年度 活動ハイライト

### 品質・信頼性向上への取り組み

カルソニックカンセイグループは、品質・信頼性に関する技術力の向上に率先して取り組んでいます。自動車業界の新しい品質規格ISO/TS16949を自動車部品システムメーカーとしては、いち早く2003年に空調部門で取得したのをはじめ、2005年には全社・全製品で取得しました。

また、適正な品質を保証するために、「安全・環境・快適」技術分野において、最新鋭の設備と実験技術により市場環境を再現し、「車両・システム・コンポーネント」の3つの階層で高い信頼性を確保しています。

	安全・耐久	環境	快適
車両	 EMC評価	 排ガス・燃料評価	 実車環境風洞試験
システム	 複合熱衝撃評価	 多軸振動評価	 擦れ・打音評価
コンポーネント	 素子・はんだ耐久性評価	 レーザー性能評価	 自動機能評価装置

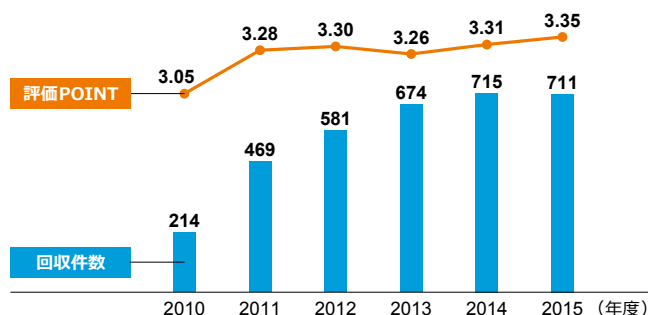
### 顧客満足度調査の継続的実施

カルソニックカンセイグループは、車社会のモノづくりをととして業界をリードし、さまざまな価値を提供し続けていきたいと考えています。お客さまのニーズに即した、高品質で適正価格な「良いモノづくり」にまい進するとともに、お客さま対応力の向上にも注力しており、2005年より年に一度「顧客満足度調査」を実施しています。

「顧客満足度調査」は、品質・価格・納入・開発・マネジメント・営業活動(QCDDMS)の各項目に5段階の評価づけと具体的な改善要望のコメントをいただく形式で実施しており、2015年度は711件の回答を得ることができ、評価は、3.35ポイント(5ポイントが最大)となりました。この調査を接点と

してお客さまとのコミュニケーションをさらに充実させ、顧客満足度の向上を目指します。

### 評価点の推移



### カルソニックカンセイグループのアプローチ

企業には、事業を通じて接点を持つ多様なコミュニティとの共存共栄関係を構築することが、サステナブルな社会づくりの観点から求められています。カルソニックカンセイグループは、企業市民の一員として、モータースポーツを通じた社会貢献活動にとどまらず、未来を担う若い世代の育成や地域社会のコミュニティ活動などに積極的に参画し、グループの特徴やノウハウを活かした社会貢献を多面的に展開しています。

## 2015年度 活動ハイライト

### 未来を担う次世代の育成

カルソニックカンセイは、社内の公募スタッフで構成された「Team SKETT」を通じて、未来を担う子どもたちを対象にさまざまな支援活動を行っています。

未来のエンジニアの育成をねらい、小学生を対象としたクルマの技術に触れるモノづくりの体験機会の提供をはじめ、公益社団法人自動車技術会主催の小学生向け体験型展示会「キッズエンジニア」への参加、小学校向けの理科の特別授業プログラムである「やってみたいコト応援プロジェクト」などの出前授業を提供しています。

このほか、関東を中心に高校生だけで運営しているNGO高校生国際会議実行委員会の活動支援や公益社団法人自動車技術会が2003年から開催している「全日本学生フォーミュラ大会」に参加・支援を行っています。

### 地元の皆さまに向けた環境コミュニケーションの実施

2015年11月、カルソニックカンセイは研究開発センター・本社において、地元の自治会や企業関係者の皆さまと、カルソニックカンセイの環境活動にかかわる懇談会「環境コミュニケーション」を開催しました。

近隣の自治会、企業、自治体など32名にご参加いただき、事業活動や環境への取り組み事例などを紹介した後、社内見学および意見交換会を4時間半にわたって実施しました。参加者からは、弊社とのつながりをさらに深めたい、といった意見が多数寄せられ、近隣の皆さまからの大きな期待が向けられていることを実感しました。

2015年度は、国内グループ企業である株式会社CKF（福島県二本松市）においても、同様の懇談会を開催しました。カ



第5回高校生国際会議



キッズエンジニア2015

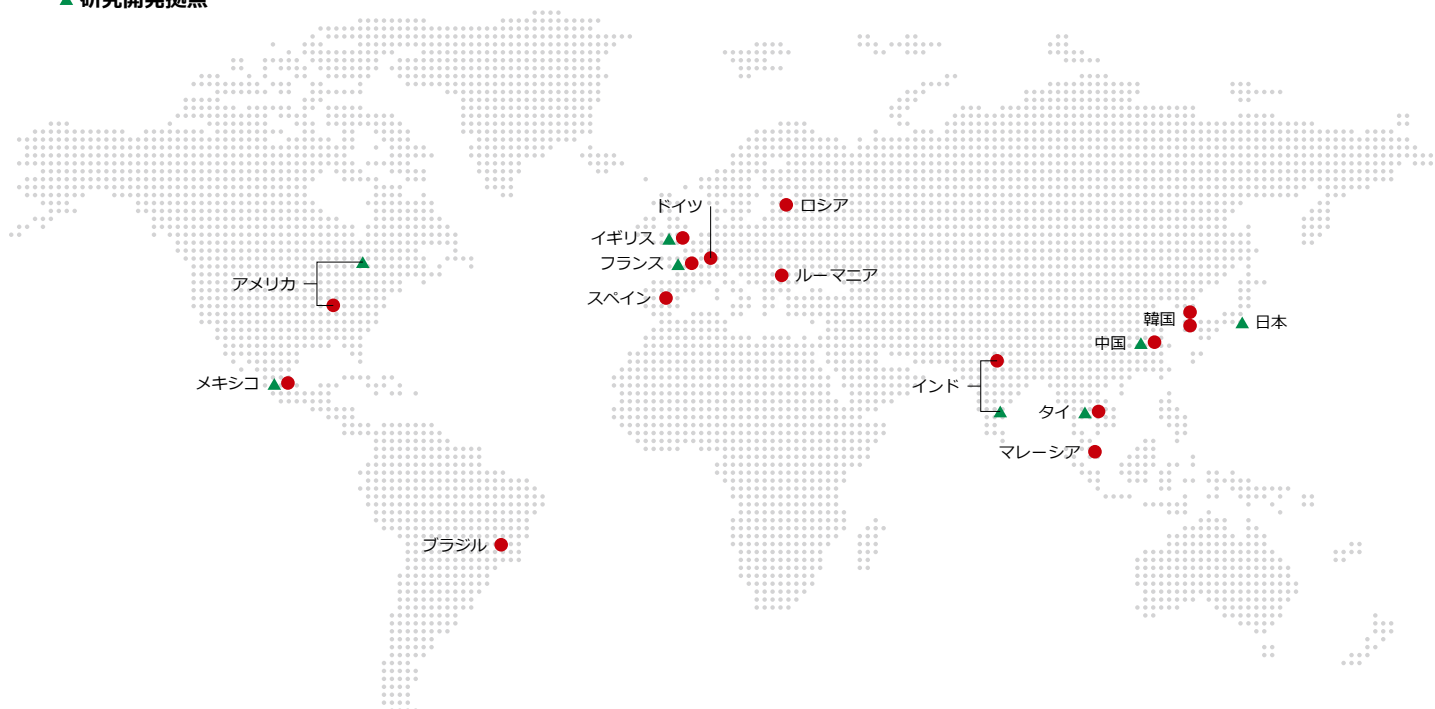
ルソニックカンセイは、今後もこうした環境コミュニケーションを継続的に開催することにより、地域との連携および共生を図っていきます。



環境コミュニケーションの様子

## グローバルネットワーク

- 海外主要拠点
- ▲ 研究開発拠点



### 海外主要拠点

#### イギリス

カルソニックカンセイ・ヨーロッパ社  
カルソニックカンセイ・ユークー社  
カルソニックカンセイ・サンダーランド社

#### スペイン

カルソニックカンセイ・スペイン社

#### ロシア

カルソニックカンセイ・ロシア社

#### ルーマニア

カルソニックカンセイ・ルーマニア社

#### フランス

カルソニックカンセイ・ヨーロッパ社  
フランス事務所

#### ドイツ

カルソニックカンセイ・ヨーロッパ社  
ドイツ事務所

#### 中国

カルソニックカンセイ(中国) 社  
カルソニックカンセイ(無錫) 社  
カルソニックカンセイ中国  
エンジニアリングセンター社  
カルソニックカンセイ(広州) 社  
カルソニックカンセイ(襄陽) 社  
カルソニックカンセイ(無錫) コンポーネンツ社

カルソニックカンセイ(広州) コンポーネンツ社  
カルソニックカンセイ(広州) ツーリング社  
カルソニックカンセイ(海門) 社  
カルソニックカンセイ(上海) 社  
シーケーエンジニアリング上海社

#### 韓国

大韓カルソニック社  
カルソニックカンセイ・コリア社

#### マレーシア

カルソニックカンセイ・マレーシア社

#### タイ

カルソニックカンセイ・タイランド社  
サイアム・カルソニック社

#### インド

カルソニックカンセイ・マザーソン・  
オートプロダクツ社

#### アメリカ

北米カルソニックカンセイ社

#### メキシコ

カルソニックカンセイ・メキシコ社

#### ブラジル

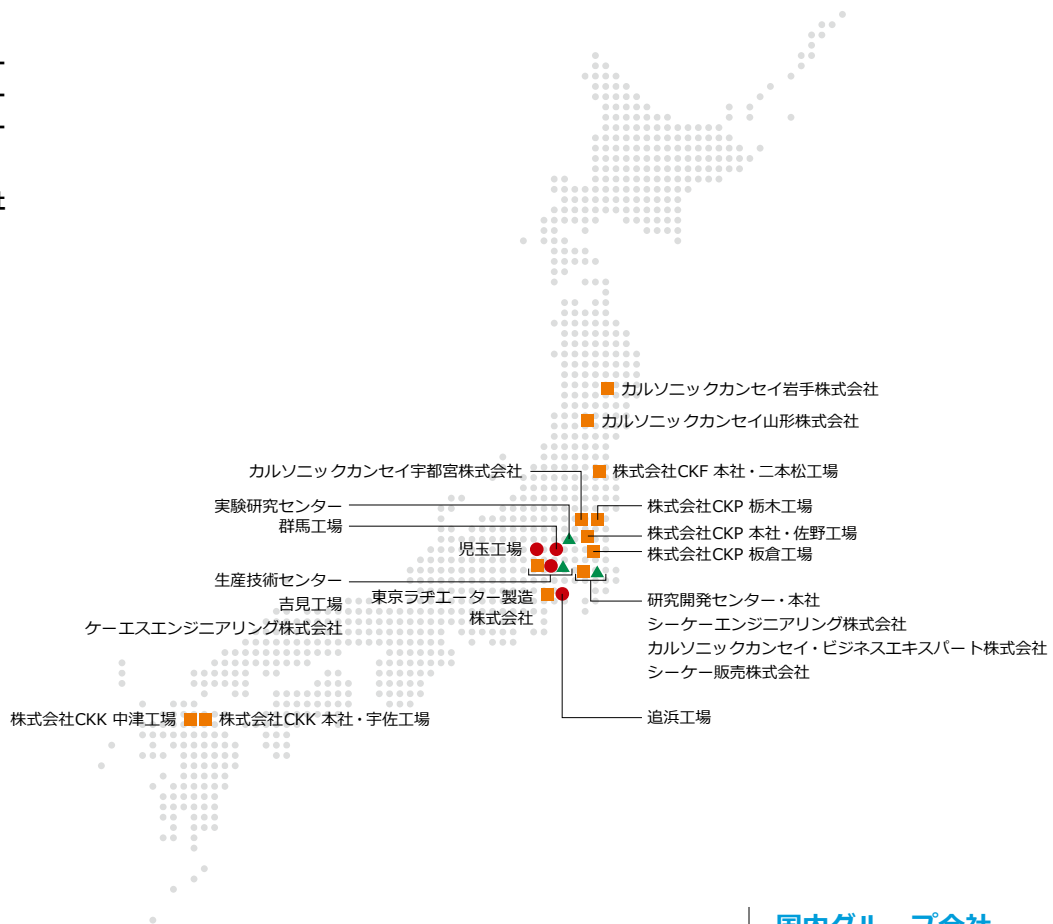
カルソニックカンセイ・ブラジル社

### 研究開発拠点

- グローバル8カ国に研究開発拠点を構え、約2,700名の開発人員を配備
- シーケーエンジニアリング社と協力し中国上海に、またL&T社と協力しインドのチェンナイに、開発エンジニアリング機能を有するセンターを設置
- 拠点：日本、イギリス、フランス、アメリカ、メキシコ、インド、タイ、中国

## 国内ネットワーク

- ▲ 研究開発センター
- 実験研究センター
- 生産技術センター
- 工場
- 国内グループ会社



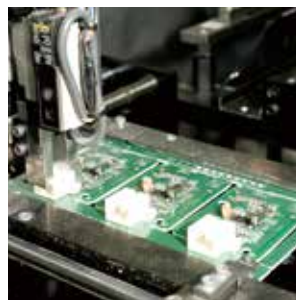
### 国内拠点



研究開発センター・本社



実験研究センター



生産技術センター

### 工場



群馬工場



吉見工場



児玉工場



追浜工場

### 国内グループ会社

- 株式会社CKK
- 株式会社CKF
- 株式会社CKP
- カルソニックカンセイ宇都宮株式会社
- カルソニックカンセイ岩手株式会社
- カルソニックカンセイ山形株式会社
- 東京ラヂエーター製造株式会社
- ケーエスエンジニアリング株式会社
- シーケーエンジニアリング株式会社
- カルソニックカンセイ・ビジネスエキスパート株式会社
- シーケー販売株式会社
- エヌピー化成株式会社
- 日新工業株式会社
- 岩代精器株式会社

## 会社概要 (2016年3月31日現在)

会社名称	カルソニックカンセイ株式会社
本社所在地	埼玉県さいたま市北区日進町2丁目1917番地
主な拠点所在国	アメリカ、メキシコ、ブラジル、イギリス、スペイン、フランス、ドイツ、ルーマニア、ロシア、中国、マレーシア、韓国、タイ、インド
主要な製品	コックピットモジュール、フロントエンドモジュール、エキゾーストシステム、エアコンユニット、コンプレッサー、メーター、ラジエーター
グループ会社数	連結： 34社 持分法： 15社
従業員数	連結： 21,987名
主なお客さま	アウディ社、いすゞ自動車株式会社、オペル社、サーブ社、GM社、スズキ株式会社、ダイムラー社、日産自動車株式会社、BMW社、プジョー社、フォード社、フォルクスワーゲン社、富士重工業株式会社、本田技研工業株式会社、マツダ株式会社、三菱自動車工業株式会社、UDトラック株式会社、ランドローバー社、ルノー社 (五十音順)
株式上場	東京証券取引所市場第一部
株主数	7,201名
総資産	438,606百万円
株主資本	217,890百万円
主な株主と株式保有率	日産自動車株式会社 40.7%
主な会員団体	一般社団法人日本自動車部品工業会、公益社団法人自動車技術会ほか

### ホームページのご案内

カルソニックカンセイグループでは、企業活動についてより多くの方々にご理解いただくため、Webサイトで情報開示を行っています。企業情報や事業・製品情報はもとより、業績やIR情報、CSR情報、モータースポーツ情報など、多彩な情報を掲載しています。



トップページ



CSR情報サイト

 [www.calsonickansei.co.jp](http://www.calsonickansei.co.jp)



# 編集方針

## 本レポートについて

カルソニックカンセイグループは、CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) に関する情報開示の一環として、また、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションツールのひとつとして、2014年よりSustainability Reportの発行を開始し、カルソニックカンセイグループの考え方やさまざまな取り組みを報告しています。

3回目の発行となる「Sustainability Report 2016」は、過去のレポートに寄せられた読者の皆さまからの声に加え、CSRおよびCSR報告に関する各種ガイドラインを参照し、媒体構成を大幅に刷新しました。

本レポート「ハイライト版」は、主にお客さまやお取引先、学生の皆さまといった幅広いステークホルダーへの「読みやすい冊子」としてテーマを厳選し、また報告内容も可能な限り平易なものとししました。

一方、別冊「詳細版」は、CSR調査会社や専門家の皆さま、CSRに関心の高い皆さまへの「より詳細な開示物」と位置づけ、カルソニックカンセイグループのCSRの取り組みに関する情報を網羅的に掲載しました。またその内容は専門家の皆さまの視座・関心事を重視し、継続的な調査に資するものとしていく方針です。



Sustainability Report 2016詳細版 (PDF) もご覧ください。

### 環境・社会・経営に関する各種原則などへの賛同

「国際人権章典」「ビジネスと人権に関する指導原則」「グローバルコンパクト」「労働の基本原則及び権利に関する宣言」「ISO26000」「企業行動憲章」などが示す活動内容に賛同し、重要な経営指標として実現に向けた取り組みを行っています。

#### 本レポートのご質問窓口

〒331-8501 埼玉県さいたま市北区日進町2丁目1917番地  
カルソニックカンセイ株式会社  
コーポレートプランニング本部 CSR／広報・IRグループ  
Tel: 048-660-2161  
e-mail: ckcsr@ck-mail.com

#### ご注意事項

本レポートに記載しました見直しについては、業界を取り巻くさまざまな要因により実績が異なる結果となりうることをご承知おきください。

### 表紙について

今回から表紙デザインを刷新しました。

カルソニックカンセイグループが大事にしている4つの領域「グリーン(環境)」「従業員」「持続可能な未来(子ども)」「モノづくり」を写真で表現しました。

この私たちの思いを、より強く感じていただけるよう白を基調としたシンプルなデザインの中に、カルソニックカンセイグループを表すグローバルブルーの帯と4つの写真を配しています。



## カルソニックカンセイ 株式会社

研究開発センター・本社

〒331-8501 埼玉県さいたま市北区日進町2丁目1917番地  
TEL.048-660-2161(コーポレートブランニング本部)

[www.calsonickansei.co.jp](http://www.calsonickansei.co.jp)

